

<大賞 1団体>

■ 多文化共生センターひょうご（兵庫）

「在住外国人のための出産・子育てQ&A集」（多言語版）

<p>団体概要</p>	<p>阪神淡路大震災をきっかけに、多言語での情報提供を行う「外国人地震情報センター」として、1995年に発足。活動の中で、在日外国人の生活全般に関する問題提起や改善の必要を強く認識し、「多文化共生センター」へと改称。地域に暮らすすべての人が理解しあい、支えあう「多文化共生社会」の実現をめざした活動へと発展させている。</p> <p>具体的な活動は、多言語による健康相談、教育や医療職を対象とした多文化共生セミナーの開催、就学前の子どもを持つ外国人を対象にした日本語教室、多言語資料や支援者向け教材の開発など多岐にわたる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、外国人親が、日本で出産・子育てをする際にぶつかる問題点をまとめた、多言語版ブックレットを作成するものである。母子保健や社会保障サービスの情報を母語で理解することで、外国人の自己決定を支援する。また、日本の制度や習慣を知り、異文化環境によるストレス等の予防を目的としている。</p> <p>具体的には、Q&A形式にした「出産・子育てに関するブックレット」を5言語で作成し、外国人家族・地域の外国人相談窓口などに配布する。日本語の併記により、専門家でないボランティアなども利用することができ、地域社会全体の支援力の向上に寄与する事業である。</p>
<p>講評</p>	<p>外国人に定住化に伴い、日本での出産・子育てをする家族が増えている。そのような中、日本の母子保健サービスが十分に周知されていない現状があり、また、サービスの窓口が一本化していないことから、外国人にとっては分かりにくいシステムになっている。出産・子育ての情報に対するニーズは極めて高いものがある。</p> <p>本事業は、「保健・医療」「社会保障」「保育・子育て」という異なった分野を網羅して、出産や子育ての相談事項や知っておくべき事項などを横断的に一冊のブックレットにまとめるプランで、「外国人の出産や子育て」という切り口に特化した総合的な情報冊子としては、他に例のない有用なものとなることが強く期待できる。先進性・社会性・効果と波及性などの面からも完成度が高いものと評価した。</p> <p>これからの本事業の展開に寄せる期待は大きく、今回の受賞をきっかけにさらに発展させ、地域での出産・子育て支援のモデルとなって欲しい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 特定非営利活動法人 ウィズネイチャー（兵庫）

「パパがアウトドアの匠になる10の方法」

<p>団体概要</p>	<p>子ども達の豊かな人間形成と健全な成長を支援するため、親子に自然とのふれあいの場を提供するとともに、親子のメンタルケアに関する事業、子育てをする親へのさまざまな情報提供及び野外教育に関わるリーダー養成事業を行う。親子のより豊かな自己実現を支援し、子供たちの健全育成に寄与することをめざしている。</p> <p>具体的な事業としては、小学生を対象にした子供の自然体験活動、森の世話人活動、キャンプ、子育て情報ポータルサイトの運営、商店街の空き店舗に親子が集まれる親子カフェ運営などを展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、父親へのアウトドアプログラムの実施である。どのように子どもと遊ぶのか分からず、とまどう父親の姿が見られることを受けて、アウトドアプログラムを通して親子間で直接体験を共有し、子どものフォローができる「アウトドアイクメン」をめざすもの。体験の共有は、親子関係が保たれる礎となり、体験していく中で子どもの接し方を理解し、将来の難しい時期での声かけに応用できる。</p> <p>具体的には、「アウトドアの匠になる10の方法」（※ロープ、木登り、テント、かまど、工具など）のうち、2つずつの項目を組み合わせた5つの匠のコースを、父親が受講する。また、父親は習得したことを別の日に子どもや母親に教える機会をつくることで、親子の体験共有をさらに促す。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、子育てをする父親に焦点をあてている点が面白く、先進性・独自性がある。子育て支援事業への父親の参加は、各団体も苦勞している感があるが、アウトドアという要素を入れることで参加しやすいものとなっている。また、子供にとっても、頼もしい父親と自然のなかでの活動を通して、創造力・考える力を身につけていくことも狙いとしており、ひねりのある事業といえる。これらの点が、高く評価できるポイントとなった。</p> <p>今後は、父親だけでなく、母親も含めて家族全員が登場するような事業展開、参加した父親が次につながる仕組みや、地域への仕掛けになることを期待したい。</p>

■ 童楽寺ホーム（和歌山）

「現代版寺子屋で“プチー休さん体験”と居場所づくり」

<p>団体概要</p>	<p>限界集落の兆しが見える地域の過疎化・少子化問題など、現代社会における子ども達を取り巻く環境に懸念を抱いたことがきっかけに、和歌山里親会や社会福祉協議会、ボランティアなどの支援も得て、2008年に「ザ・現代版寺子屋」として里親ホームを開設した。里子や要保護児童などの長期養育児童、地域の一般参加の子ども達と保護者に、四季折々の大自然をフル活用し、伝統的な風習・習俗などを通じ、人間関係の構築を目的に活動している。</p> <p>具体的には、養育里親活動、童楽寺カフェサロン、月例児童参加型イベントなど、地域でさまざまな子育て支援活動に取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、週末や長期休暇を利用して、小学3年生以上を対象とするお泊まり体験「プチー休さん体験」を実施するものである。児童虐待などの社会問題を危惧し、孤立社会・無縁社会といわれる現代社会に「つながり」を取り戻すべく健全な人間関係の構築や、孤立している親子には「居場所」となれるような継続した「つながり」の改めでの構築を目的としている。</p> <p>具体的には年間40人の体験生を募集し、大自然の中で生活体験を実践する。参加するボランティアや児童と24時間共にする生活を通じ、世代間交流と共同作業を、地域の住民や団体との連携で行う。</p>
<p>講評</p>	<p>世の中の歪みの現象とも言える孤立社会・無縁社会の中、本事業の「居場所」「つながり」「癒しの空間」づくりは、土地柄もあるが、お泊まり体験や大自然の生活体験などの実践を通じた取り組みに新しい展開が見られる。また、HPの開設や機関紙づくりにも力を入れて広報にも努力されている。これらの取り組みが、今後の継続的なプログラムも期待でき、高く評価されたポイントとなった。</p> <p>さらに、地域の社会福祉協議会や住民、市民団体との連携でプログラムが組み立てられ、それぞれが重要なアドバイザーとして積極的に参画している。本助成を契機にして、今後の波及・発展することを大いに期待したい。</p>